

現状と課題

在宅歯科医療実施機関

- ・都歯科医師会実施の「かかりつけ歯科医と歯と口の健康づくりに関する調査」によると、在宅歯科医のうち他職種と連携をしている割合は低い。
- ・多職種との連携にあたっては、「連携機関間での患者情報が不足している」、「連携機関間での役割が明確でない」、「在宅歯科自体の知名度不足」などを多くの歯科医療機関が課題として挙げている。

- ・歯科医師や歯科衛生士と多職種連携はまだ進んでいない
- ・在宅歯科医療自体の知名度も不足している

多職種

- ・訪問看護師や介護職から伝えられる口腔内の状況に関する情報では、歯科医師が必要とする情報が十分把握できない。
- ・在宅療養患者に日常的に関わる看護師やケアマネ、介護職にとっては、口腔内に関する相談をしたいが直ぐに相談できる場所がない、どこに相談しているのかわからないといった課題を抱えている。

- ・口腔ケアを必要とする患者状況の判断ができない
- ・地域で在宅歯科医療を実施している医療機関情報が不足

事業目的

在宅歯科医療にかかる多職種連携のノウハウや意義を歯科医療従事者や多職種に伝えるとともに、患者・家族や療養生活を支える人材に対し歯科介入の意義を普及啓発することで、地域における多職種連携の取組を支援し、在宅療養患者の口腔機能の維持・改善・向上を図る。

事業内容

連携マニュアル・チェックシートの開発

- ◆ 在宅歯科医師と多職種が連携するにあたり求められる役割や必要な知識、介護・訪問看護等の役割、機能等について理解を深めるためのマニュアルの開発
- ◆ ヘルパーなどの介護に携わる他職種が患者の口腔内の変化に気づき、歯科に繋ぐことができるようなチェックシートの開発

在宅歯科医療講演会等の実施

- ◆ 歯科医師や歯科衛生士等に、介護保険制度や地域包括ケアにおける多職種連携の先駆的な取組などを紹介する講演会を実施
- ◆ 多職種と歯科医療を繋ぐノウハウを身につけ、歯科側から多職種に発信するために必要な知識等を身につけるための研修会を実施

普及啓発事業の実施

- ◆ 口腔ケアや口腔機能維持の大切さについて、都民及び多職種向けの普及啓発を実施

地域におけるモデル的取組の支援

＜モデル的取組を行う地域の支援＞

（地域医療介護総合確保基金を活用し、2か年実施）

【目的】連携マニュアル・チェックシートを開発するため、実践事例の収集

【取組】（例）

- ① 歯科衛生士等を地域に配置し、在宅歯科医療と多職種を繋ぐためのプロモーターとして活動
- ② 取組事例、ツール等利用した取組を報告し、都で作成するマニュアルやチェックシートに反映

＜参考＞

